

道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル

創る

Vol. 14

2020.3

その先の道へ、北海道
Hokkaido, Expanding Horizons.

contents

01 特集

北海道白老町にウボボイ(民族共生象徴空間)
オープン！

07 地域が動く・プロジェクト最前線

- 07 ① 津別町
道東エリアリノベーション
プロジェクト イン 津別
- 09 ② 秩父別町
子ども子育て応援宣言のまち 秩父別
～子育てするならやっぱり「ちっぷべつ」～
- 11 ③ 遠別町
「遠農物語」
～遠別農業高校活性化へのストーリー～

13 「なおみちカフェ」から ～地域創生のヒントを探る～

知事が地域訪問する機会に地域で活躍されている方をお訪ねし、その様子を紹介するコーナー

- 13 空知編 そらぶちキッズキャンプ
- 14 渡島編 道の駅「なないろ・ななえ」



※ 画像はイメージです 提供：文化庁

特集

2020年4月24日

北海道白老町に

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

ウポポイ(民族共生象徴空間)
オープン!

古くからアイヌ民族のコタン(集落)があったことで知られる北海道白老(しらおい)町。その白老町ポロト湖のほとりに2020年4月24日『ウポポイ(民族共生象徴空間)』が誕生します。そこで、今回の特集では、このウポポイについて詳しく紹介します。

アイヌ文化の復興などに関するナショナルセンター

ウポポイは、アイヌ文化の復興などに関するナショナルセンターとして、アイヌの歴史、文化などに関する国民の幅広い理解促進をはかるとともに、将来へ向けてアイヌ文化の継承をより確実なものとし、新たなアイヌ文化の創造と発展につなげる中心的な拠点です。愛称のウポポイは「(おおぜいで)歌うこと」を意味するアイヌ語に由来し、「国立アイヌ民族博物館」や「国立民族共生公園」、「慰霊施設」が整備されます。政府は年間来場者の目標を100万人としており、北海道観光の起爆剤としても大きな期待が寄せられています。



▲ポロト湖畔(白老町)

ウポポイ(民族共生象徴空間)とは

先住民族アイヌを主題とした日本初の国立博物館である国立アイヌ民族博物館は、伝統的アイヌ文化の一面的な展示ではなく、現代に息づく多様なアイヌ文化とそれに関わる人々を様々な視点から紹介します。

国立民族共生公園は、アイヌの伝統的生活を体感する「伝統的コタン」、アイヌ古式舞踊公演の場となる「体験交流ホール」、木彫や刺しゅう体験ができる「工房」などからなる体験型のフィールドミュージアムで、豊かな伝統を未来へとつなぐ、多彩な体験交流プログラムが用意されます。また、アイヌの方々による尊厳ある慰霊を実現するための慰霊施設が、ポロト湖東側の高台に整備されます。



創る ◆特集 ウポポイ(民族共生象徴空間)オープン！

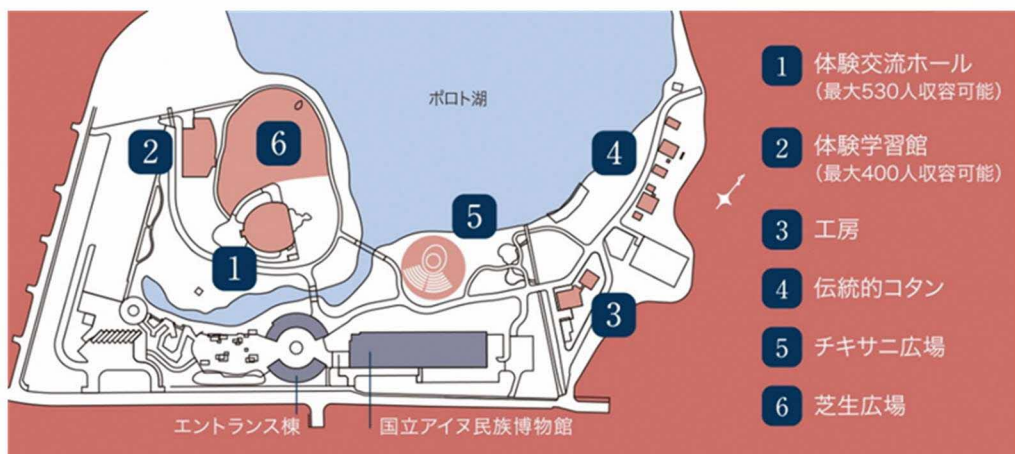
アイヌの人々は、日本列島北部周辺、とりわけ北海道に先住し、独自の言語や宗教、文化の独自性を有する先住民族です。政府では、衆参両院による「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」（平成20年）及び「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」による報告（平成21年7月）を踏まえ、内閣官房長官が座長を務めるアイヌ政策推進会議のもとに、アイヌの人々の意見を聞いてアイヌ政策を推進しています。

アイヌ文化の振興や普及啓発については、平成9年のアイヌ文化振興法の施行により、北海道内各地域を中心に様々な取組が展開され、アイヌ文化伝承活動の裾野が拡大するなど一定の効果が現れた一方で、アイヌ文化の伝承者が少なくなり、アイヌ語や伝統工芸など存立の危機にある分野が存在しているとともに、未だなお、アイヌの歴史や文化等については、国民の幅広い十分な理解が得られていないといった課題に直面しています。

このような背景を踏まえ、「ウポポイ（民族共生象徴空間）」は「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」による報告において、アイヌの人々が先住民族であるとの認識に基づき展開される今後のアイヌ政策の「扇の要」として提言されました。

この象徴空間は、アイヌ文化を振興するための空間や施設を整備するというものだけでなく、我が国の貴重な文化で

ありながら存立の危機にあるアイヌ文化を復興・発展させる拠点として、また、我が国が将来に向けて、先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として、複合的意義・目的を有する空間として整備されるものです。





国立アイヌ民族博物館

日本国内には、東京、京都、福岡などに全部で7館の国立博物館がありま
す。この度「ウポポイ」内に整備され
る国立アイヌ民族博物館は、北海道で
は初めて作られる最北の国立博物館で
す。伝統的なアイヌ文化の二面的な展
示にとどまらず、現代に息づく多様な
アイヌ文化とそれに関わる人々を様々
な視点から紹介します。基本展示では、
アイヌ民族の視点で語る「6つのテー
マ」に沿った展示を実施します。

私たちのことば

口承文芸をはじめ、アイヌ語のしく
みやアイヌ語由来の地名などについて、
音声や映像を交えて紹介します。

私たちの世界

アイヌの世界観の中心となる、カム
イ(神)の考え方、自然観、死生観な
どについて紹介します。

私たちの暮らし

衣食住、人の一生、音楽や舞踊など、
アイヌ文化の特色や地域差を紹介しま
す。



私たちの歴史

現代に続くアイヌの歴史のひろがり
と連なりを映像でわかりやすく紹介し
ます。

私たちのしごと

伝統的な生業のほか、現在を生きる
アイヌの多様な仕事を紹介します。

私たちの交流

交易品を通して、さまざまな文化や
民族との交流をたどっていくとともに、
現在に続く民族共生のありかたを伝え
ます。